

## 地震後の点検



<写真1>外から見た北門近くのブロック塀



<写真2>運動場から見た同じブロック塀

大阪府北部で発生した地震により、登校中の4年生女子が倒れたブロック塀の下敷きになり、命を落としました。報道によれば、1974年の開校当時はブロック塀ではなく、金網のフェンスであり、その後、プールが校外から見えないように目隠し替わりにブロック塀にしたとのことです。

本校でも、敷地がどのように囲まれているか、状況をもう一度確認しました。本校の場合は、ほとんどが金網製のフェンスで囲まれています。北門付近に一部ブロック塀がありますが(写真1)、ご覧のとおり、裏側は、運動場の土で支えられており(写真2)、すぐには倒れそうにありません。

これからも、安全な学校づくりのため、注意を払ってまいります。お気づきになった点があれば、お知らせください。

## サクラの木も伐採

大阪府の地震発生より前に、危険を感じて処理したのが、運動場のサクラの木です。

写真Aの○の部分に一本のサクラの老木がありました。以前から危険を指摘されていた



<写真A>



<写真B>

ので、専門業者に診断してもらいました。「樹皮だけで支えている状態です。」との診断結果でしたので、すぐに伐採しました。

写真Bが、○の部分の拡大写真です。地面すれすれで切ってしまうと、つまずくおそれがあるため、低い切り株を残す形にしています。運動会当日には、たくさんの幼稚園児なども集まるので、運動会前に伐採を終えました。

今後も、危険箇所を早く発見できるように努めてまいります。